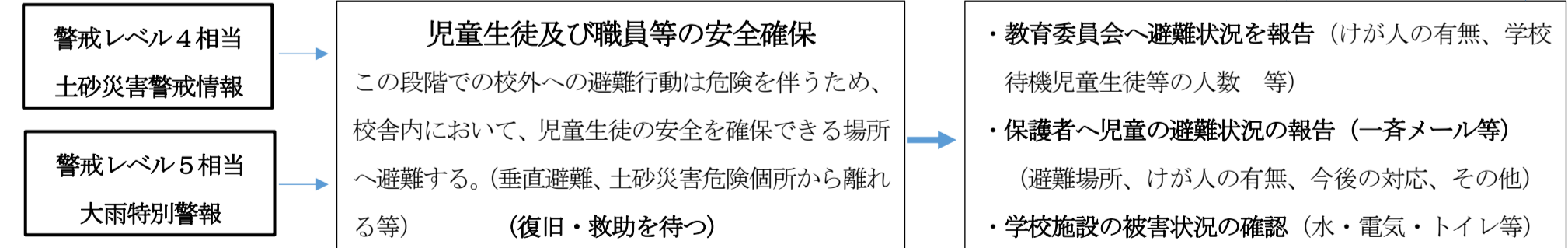
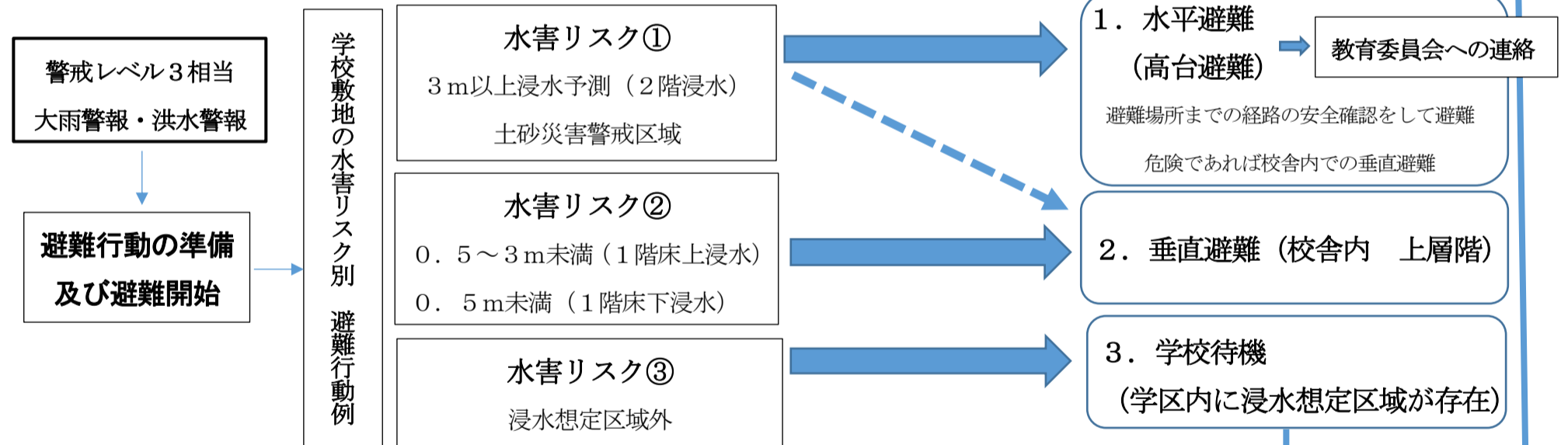
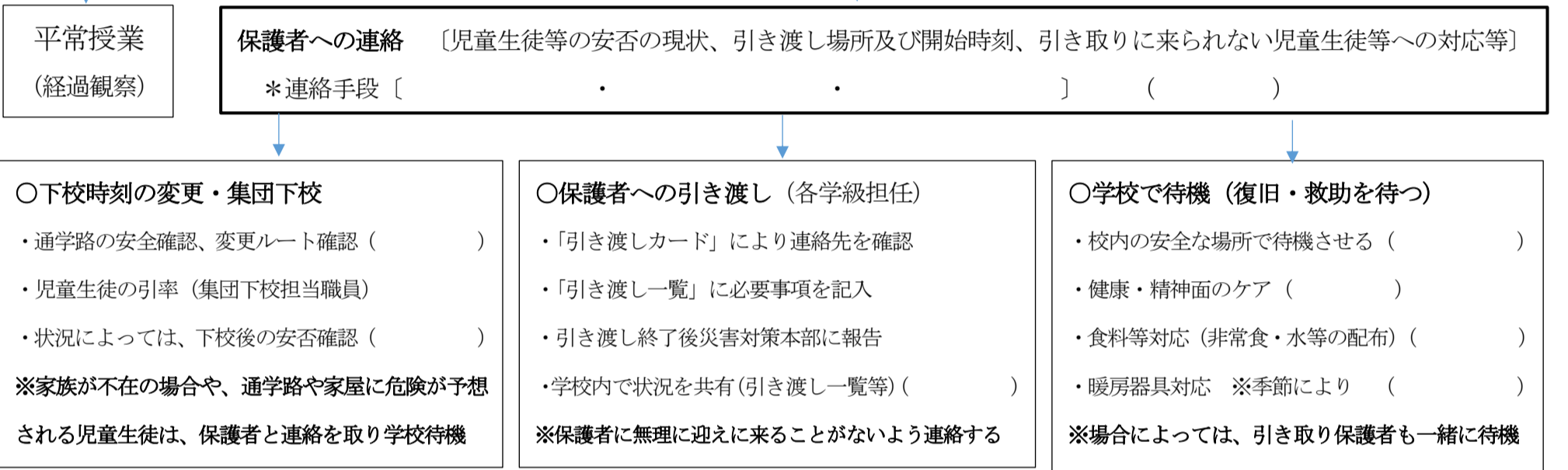
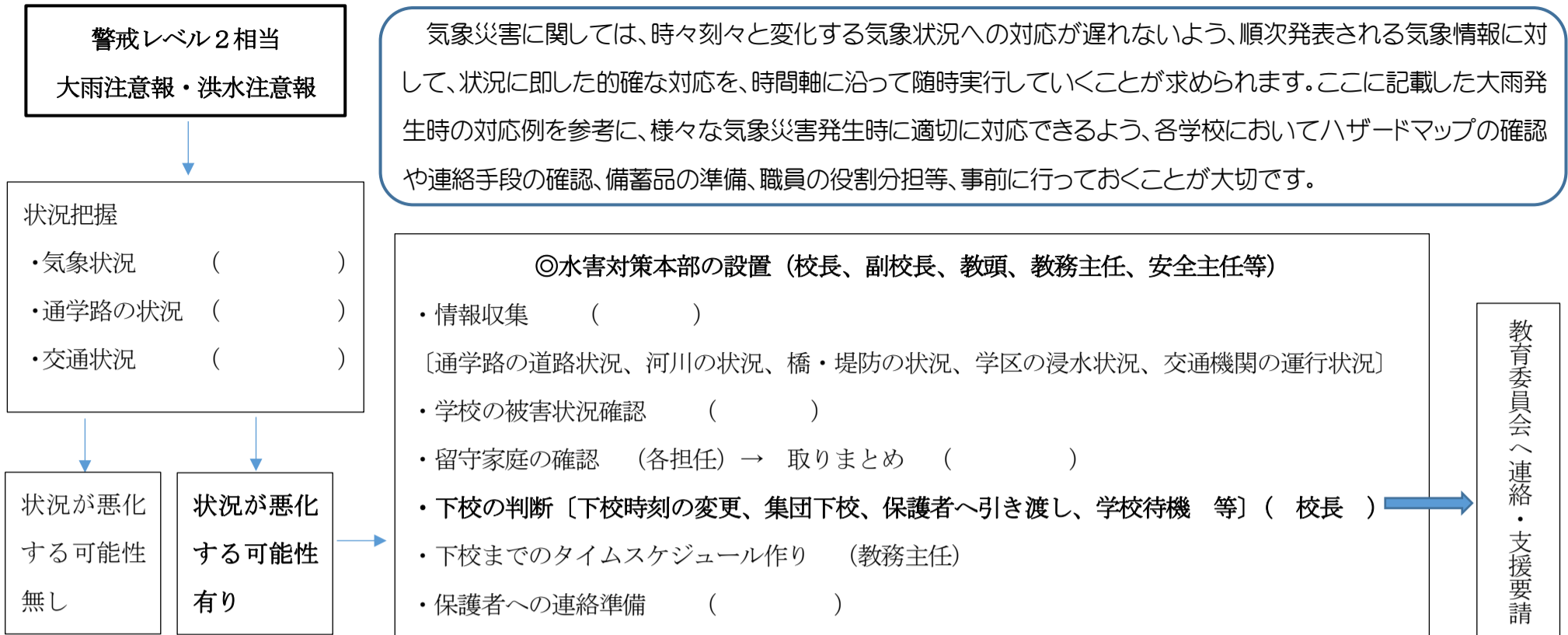


大雨発生時・危機管理マニュアル（児童生徒等在校時）（例）

気象災害に関しては、時々刻々と変化する気象状況への対応が遅れないよう、順次発表される気象情報に対して、状況に即した的確な対応を、時間軸に沿って随時実行していくことが求められます。ここに記載した大雨発生時の対応例を参考に、様々な気象災害発生時に適切に対応できるよう、各学校においてハザードマップの確認や連絡手段の確認、備蓄品の準備、職員の役割分担等、事前に行っておくことが大切です。



< 職員の役割分担 例 >

- 校長：全体指揮、近隣学校との連携
- 教頭：保護者への情報伝達、教育委員会・警察・消防等への連絡、飲料水、食料等の準備・確保
- 教務主任：下校までのタイムスケジュール作成、引き渡し準備
- 学級担任：児童生徒等引率、引き渡し準備
- 担任外：情報収集（気象状況、学区の安全状況、交通状況）

天候回復後

- 警報等が解除され、天候が回復した後、学区の状況把握や、交通機関の運行状況等を確認し、下校や保護者への引き渡しを再開する。
※学区の状況を確認する際、教職員自身の安全確保に留意する。
- 児童生徒等が、無事帰宅できたかを確認する。
- 学校の被害状況について確認する。

教育委員会へ被害報告・支援要請